

CLAIR トピックス

——最近のクリアの動きを短くまとめて紹介します



北京事務所

北京事務所は今年で設立 20 周年を迎えます

1997年12月24日に設立されたクリア北京事務所は今年で20周年を迎えます。今年度も積極的に日中友好の促進に寄与する事業に取り組んで参ります。

折しも今年は日中国交正常化45周年、来年は日中平和友好条約締結40周年を迎えます。外務省では、2017年1月1日から2018年12月31日までに実施される青少年、文化、映画、観光、スポーツ、経済および地方間の交流に関する行事を、日中国交正常化・日中平和友好条約締結周年行事として認定し、統一ロゴマークの利用を進めています。認定行事は周年行事イベントカレンダーにも掲出されます。

行事登録、ロゴマークの利用については、クリア北京事務所 <clairbj-jp@clair.org.cn>までお問い合わせください。



日中交流活動のシンボル
ロゴマーク (CJハート)



ソウル事務所

韓国の著名漫画家ホ・ヨンマン氏が福岡県の魅力を発信！！

2月16日から20日まで、クリアソウルの事業により、韓国の著名漫画家であるホ・ヨンマン氏をはじめ、有名な旅行作家やコラムニストらが、福岡県を訪問取材しました。

玄界灘に浮かぶ大島では、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の一部としてユネスコの世界文化遺産への登録を目指す宗像大社の「中津宮」の荘厳な姿に、取材団は大いに感銘を受けたようでした。そのほかにも、蔵開きのまつりやとんこつラーメン製作体験、柳川での川下りなど、福岡の自然や食、そして文化の魅力を取材しました。

取材内容は、韓国で毎月10万部発行される月刊誌『WOMAN SENSE』に掲載され、韓国国内に広く発信されます。

今後、福岡県を訪れる韓国人観光客のさらなる増加が期待されます。



ロンドン事務所

「JET プログラム Explanation Seminar」を開催しました

2月16日、ドイツ・デュッセルドルフ市内で「JET プログラム Explanation Seminar」を開催しました。2016年に30周年を迎えたJETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）について理解を深めてもらうことを目的に開催したもので、現地日独企業の人事担当者や地元大学に通う学生など約40人の参加がありました。

JETプログラムやJETAAドイツ支部活動の説明のほか、JETプログラム経験者から日本で培った経験とその仕事への活用について、JETプログラム経験者を採用している企業関係者からはJETプログラム経験者を採用するメリットなどについてお話しいただきました。その後のネットワーキングセッションでは、参加者から「JETプログラムへの参加のモチベーションが高まった（学生）」、「人材発掘の良いネットワークを知ることができた（日系企業の人事担当）」などの感想が寄せられました。



シンガポール事務所

タイ・バンコクで食品展が大盛況！

1月28日から2月6日まで、クリアがバンコクの高級百貨店エムクォーティエにて「日本ふるさと名産食品展」を開催しました。日本各地から8自治体、10事業者が出展し、和牛、日本茶などを販売しました。

今回の食品展では、食べ歩き好きのタイ人向けに、購入したものをすぐに食べられるようにお弁当や焼き芋の実演販売を実施するなど、タイ人のニーズに合わせた工夫を凝らしました。

出展事業者が立ち止まったお客様に試食を勧め、商品の特徴を丁寧に説明したこともあり、それに納得したお客様が「爆買い」している姿も見られました。

海外で開催する食品展では、いかにお客様の疑問を解消し、味や商品を知ってもらい、購入につなげるか、その工夫が重要であると感じました。





シドニー事務所

焼津市・ホバート市姉妹都市提携 40 周年事業を開催

2月3日、静岡県焼津市と豪州ホバート市との姉妹都市交流 40 周年を記念し、中野弘道焼津市長をはじめとする訪問団を迎え、ホバート市で記念式典が開催されました。式典では、両市長による姉妹都市提携再確認書の調印や節分にちなんだ催しが行われたほか、翌 4 日には、日本夏祭りにおいて、書道や折り紙などの文化交流事業が行われ、幅広い世代の多くの来場者でにぎわいました。シドニー事務所は、焼津市を紹介するブース運営のサポートを行うとともに日本各地の観光地の PR を行いました。40 年間の強い絆のもと、今後も両市のさらなる友好関係の発展が期待されます。



パリ事務所

ベルギーの姉妹都市との関係を強化

2月21日に行われた在ベルギー日本国大使館主催の姉妹都市連携強化レセプションに参加しました。現在ベルギーには日本との 8 つの姉妹都市、2 つの友好都市、2 つの友好港があります。本レセプションは 2016 年の日白友好 150 年に向けて関係強化を促すことなどを目的に 2014 年から実施され、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを含め今後の交流の一層の活発化を目指し開催されたものです。レセプションには、8 都市・2 港から 16 人の市長・副市長・交流担当者およびベルギー外務省の日本担当者が参加しました。参加された自治体・港関係者やベルギー大使館職員から現在の交流状況などをお伺いし、貴重なネットワーク強化の機会となりました。



ニューヨーク事務所

アメリカの大学で日本をプレゼン

2月28日と3月7日の2回にわたり、ウィリアムパターソン大学（ニュージャージー州）において、ニューヨーク事務所職員が日本の地域事情の紹介を行いました。日本関連のイベントを企画する学生グループと日本語コースの准教授の企画によるもので、約 25 名の学生が参加しました。職員が出身地の生活や文化、観光名所などのプレゼンテーションを行ったところ、方言や特産品などについて質問が数多く寄せられ、終了後も職員の周りには質問者の輪ができていました。



JET プログラム事業部

トップセミナーを開催しました！

国際交流って何？異文化って何？グローバル化が急速に進んでいる中、日本各地を訪れる多くの観光客や在住外国人とうまくコミュニケーションが取れていますか？

外国人として身近な存在である JET 参加者との相互理解と交流を深めてもらえるよう、徳島県庁で、県内の首長の皆様など 32 名に参加いただいて、トップセミナーを開催しました。異文化コミュニケーションにおける「あるあるネタ」をコントとして交えた講演は、「大変面白くて分かりやすかった」と好評でした。



交流親善課

海外自治体幹部交流協力セミナー（シドニー事務所管内）を実施しました！

オーストラリアの自治体幹部 5 名を招き、2月12日から22日までの行程にて、「小さな地方都市における地域の歴史・文化を活かした外国人観光客誘致」および「地域の特質を大事にしながら、隣接する行政区と連携し観光産業を推進していく広域連携」をテーマに島根県の益田市・津和野町、山口県の萩市の視察などを実施しました。参加者からは、観光客にとって行政区域は関係ないためエリアとしてのマーケティングが必要であるといった意見や、詳細な日本史の知識が必要な観光素材については、体験したり、雰囲気を感じたりする形で提示する方がよいといった提案がありました。また、地域の伝統行事や文化の保存に尽力している地域の方々の姿勢も評価され、深い歴史や文化がある観光地こそ、観光客と地域の人との関わりが重要であるという意見もありました。

